

石

石の漢字についてのお話です。「石」の漢字は象形文字として小学校低学年で教えられたと記憶しています。私が中学生の頃から使用している漢和辞典には、『「厂」(がけ)の下にある小さなかたまり「口」のさまにより「いし」の意を表す。』とありました。

しかし、漢字学者の白川 静(しらかわ しずか)先生(1910-2006)の見方は違うようです。会意文字と考えていて、「厂」は山の崖の形を、「口」は臼で、祝詞を入れる器の形、神様への捧げる様子を指し示しているそうです。先生は甲骨文字や金文といった草創期の漢字の成り立ちに於いて宗教的、呪術的なものの見方をすることで知られています。この学説には賛否両論あるようですが、このように一つの漢字の成り立ちをとっても見方が大きく異なるようです。

見方が異なるのは漢字だけではありません。リアルな石も同じです。同じ地層の観察結果でも見方は千差万別です。日本列島の成り立ちも、現在は、すべてプレートテクトニクスで説明されています。しかし、私が高校生だった30年ほど前は事情が違ったようです。当時の教科書では、日本列島の成り立ちは地向斜説で説明されていました。地層が曲がりくねって日本列島の断面図が大きく掲載されていたことを思い出します。現在、主流のプレートテクトニクス説も当時は少数派だったようです。

研究も同じです。どの研究分野にも少数意見はあると思います。研究では少数意見にも真摯に耳を傾け、それを吟味する能力が求められるものと思います。その少数意見の中には、いつか多数意見になる日が来るかもしれません。

(防災地質チーム上席研究員 倉橋 稔幸)

* * * *

表紙左上記号 ISSN 2432-2652の説明

国際的なコード番号であるISSN(International Standard Serial Number: 国際標準逐次刊行物番号)は、ISSNネットワークが管理する、逐次刊行物を識別するための固有の番号です。この番号は国立国会図書館ISSN日本センターから付与されたものです。